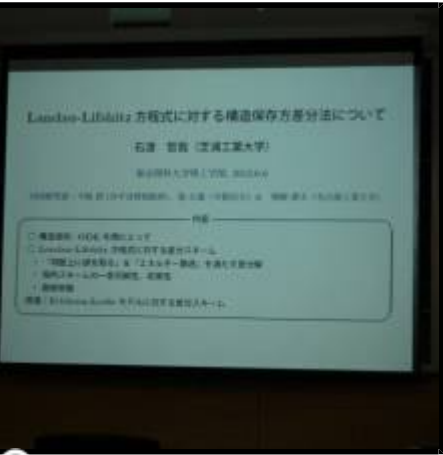


第02回

- 講演者：石渡 哲哉 氏（芝浦工業大学）
 - 題目□Landau-Lifchitz方程式に対する構造保存型差分法について
 - 日時：平成24年6月6日（水）16：30～17：30

磁性体中の電子スピンの動きを記述するLandau-Lifshitz方程式や、液晶の配向ベクトルの動きを記述するEriksen-Leslieモデルなど、ベクトル値発展方程式（系）について考える。これらの解は、時間発展の際各点でベクトルの長さを変えないという特徴を持つ。ここでは□Landau-Lifshitz方程式を中心に扱い、長さ保存性およびエネルギー構造を共に継承する差分スキームを提案し、このスキームに対する一意可解性、収束性等などの結果や、現時点での問題点、それに対する改善案などについて報告する。時間があれば、他のモデルなどについても言及する。



.lg-outer.lg-pull-caption-up.lg-thumb-open .lg-sub-html {bottom:80px;}

80 images

[<6>]

From:
<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:
<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/seminar/2012/002>

Last update: **2017/11/16 23:31**

